

令和7年度 第1回佐用町立学校の在り方検討委員会 意見要旨

日 時 令和7年8月5日(火)

開 会 午後3時00分

会議場 佐用町役場西館2階 防災会議室

1 開会

2 委嘱状交付

3 副町長挨拶

- ・10数年前の出生者数100人程度だったが令和6年度は30人台。
- ・私個人の意見としては、子どもファーストで考えたい。
- ・町としては、文部科学省、県教育委員会の指針をふまえながら、検証、研究に努めているところで、検討委員会における協議を通して検討を進めていきたい。

4 教育長挨拶

- ・令和6年度出生数が34人と衝撃的な数字が出ている。今年度はそれを下回る見込み。
- ・合併当時は10小学校、4中学校と組合立の三土中学校。その後の統廃合で令和2年には今の4小学校、4中学校という状態。そのような中でも、近い将来には複式学級を編成しなければならない状況に迫られている。
- ・佐用町の子どもたちのために、未来の教育環境について真剣に議論する必要がある。
- ・私個人としても、保護者・児童生徒・教職員・地域住民との丁寧な合意形成を図っていかねばならないと考えている。
- ・大きな課題になるが、ここでの協議が未来の教育の在り方を考えていくので、活発なご議論をお願い申し上げたい。

5 委員・事務局紹介

資料「委員名簿」「出席者名簿」

6 委員長・副委員長選出

(資料P6)「佐用町立学校の在り方検討委員会設置要綱」

- ・委員長－兵庫教育大学大学院 元教授 廣岡 徹
- ・副委員長－西坂 一成「教育委員会推薦」

7 委員長挨拶【廣岡委員長】

- ・委員長の指名を、謹んでお受けする。
- ・今朝の神戸新聞で「県立高校再編、後期計画延期へ」の記事があった。
- ・県立高校の再編について、県教委は前期計画で14校を6校に再編したところで、西播磨では福崎高校と夢前高校が「播磨福崎高校」に再編された。
その後期計画について、今年度中に発表予定であった再編対象高の発表を延期するというものであった。延期の理由として、高校授業料無償化の影響と、学区の再編を行い学校規模の適切化を図ったがなお対応し切れていない状況があることの検証が必要だ

と、記事ではまとめている。

- ・県立高校委の再編と、市町立の小中学校の学校規模の適正化とは単純に比較できないが、将来の進学先という観点からも町内の県立高校を維持するという観点からも、佐用町では佐用高校との関係も視野に入れる必要があるものと思われる。
- ・長期にわたる児童生徒数の減少の影響の大きさを、今さらながら痛感した。
- ・何よりも「佐用町の子ども達にとって何が大切か」という観点からのご意見をいただくことをお願いして、就任のご挨拶とさせていただく。
- ・本会議の運営にあたって、議事録についてはその要旨を町HPで公開すること、奇譚のない多様な観点からのご意見をうかがうという観点から会議については非公開とすることをご了承いただきたい。(了承)

8 佐用町教育委員会からの諮問

(資料P 1)

9 議事

(1)学校規模適正化推進計画（H23～32年度について【企画総務室長】

(資料P 2)

(2)佐用町立学校の在り方検討委員会の要綱、概要、方針について【企画総務係長】

(資料P 6～10)

(3)佐用町立学校の現状と課題、将来推計について【企画総務室長補佐】

(資P 11～15・参考資料 1-1、I-2、2)

→(1)から(3)についての質疑及び感想・意見交換

【委員】 資料によると令和20年には中学校4校を合わせて135人、特に中学校については急ぎ統合しなければいけない。上郡町も取り組んでおり、そのような例も参考に検討をお願いしたい。

【委員】 佐用町でも学校再編のモデルにしたい自治体はあるのか。教育委員会の実際の視察を含めて、委員の判断の参考になるように事例を示してほしい。

→ **【教育課長】** モデルにしようというわけではないが、たつの市の新宮や岡山県美咲町に視察実績がある。他の自治体事例は国が進める方向で統廃合を進めていく部分があり、佐用町の場合は通学距離等についても検討していく必要がある。保護者や当事者の方々が実際どう考えているかを聞いて判断をしていきたい。先進事例を取り入れてというようなことは今のところ考えていないので、皆さんの意見をしっかりと聞いた上で、佐用町に適正な方向を判断させていただきたい。

【委員】 部活動の地域移行について、佐用町の状況は？

→ **【教育推進室長】** 町スポーツ協会等、関係機関と協議しているが、現状は受け皿の

面で難しくなかなか進んでいない。当面は各校の部活動を維持しつつ、地域連携を進め、指導員を確保したい。この部活動の地域移行の問題も、この学校の在り方検討委員会の中で意見交換していきたい。

【委員】子どもファーストで考えた場合、子どもの人数が減ることが悲惨な未来なのか？学校統合を行うことが子どもの明るい未来につながるのか。子どもたちにとっての教育の価値が現状で受け止められているのか。子どもの人数が減ることは事実だが、本町で子育てをすることが不安になってきた。

→【廣岡委員長】不安についての直接の答えとはならないが、文部科学省のリーフレットに示された学校再編に伴うメリット・デメリットについて、事務局から説明をお願いしたい。

→【企画総務係長】
(資料P26)

【委員】学校の適正規模、適正配置について、今治市は島が多いので分校となっている。複式学級を活かすこともあるのでは？コストやリソースの面からの適正規模なのか？誰に対しての適正化なのか。

→【廣岡委員長】文部科学省は、学級編成について、学校教育法施行規則で学校規模の基準は12学級（各学年2クラス）以上を標準としている。

【委員】旧町ごとに児童生徒数の減少実態が異なる（佐用はあまり減っていないが南光・三日月は減少傾向）が、保護者の意見は聞くのか？

→【企画総務係長】アンケートや地域での説明会を実施する予定である。
(資料P22, P23)

【委員】今後の会議開始時間について、現状の15時開始のままで良いか。PTAや保護者の方が集まりやすい時間帯に変更していただきたい。

→【教育課長】委員を依頼する際に「日中参加可能な方」として依頼をさせていただいた。そういう前提なので検討はしたいが難しいと思われる。

【委員】このように皆で集まる会議はメリットもあるが、発言ができない方もいる。会議外でも意見徴収や資料共有ができる環境を整えていただきたい。例えばインターネットを介したチャットなどで、情報を閲覧しながら、自由に意見を投稿できるようなものもある。

→【教育課長】可能かどうかは要検討となるが、別途協議の場を設けていきたい。

【委員】少子化による厳しい現状は分かったが、佐用町として少子化を止める施策が必要なのでは。特に若い世代の定住促進のPRが足りないと思うので、考えていただきたい。

また、統合し新校舎を建設したが廃校となっている学校がある。このあたりも計画が不十分だったのではないのか。

→【副町長】少子化対策について申し上げます。これは教育委員会というよりも、行政全体の課題であるため、私から説明いたします。ご指摘のとおり、人口減少は急激に進んでおり、少しでもその影響を緩和する取り組みを進める必要があります。

本町では、給食費半額助成、高校生までの医療費無料、第1子からの保育料無料、副教材費相当分の子育て支援券の支給など、近隣においても先進的な子育て支援を行っています。しかし、全国的にも少子化は止まっておらず、経済的支援だけが原因解消につながるわけではないと考えています。実際に東京のように仕事や所得の面で条件が良くても、出生率は低い状況にあります。

また、明石市のように子育て支援を掲げて人口が増えている事例もありますが、本町は地理的条件から移住定住が難しい現実があります。ただし、PR不足は課題と認識しており、移住・定住施策や少子化対策のパンフレットを整備しているものの、十分に住民の目に届いていないと感じています。今後は情報発信を強化してまいります。

加えて、働く場所についてもご指摘をいただきます。都市部に比べて職種や数が少ないことは事実ですが、一方で町内の事業者からは企業等が求人をしてもらえない現状もあります。

いずれにしても、学校の在り方検討とあわせて、人口減少を緩和する政策にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

【委員】誰のための検討であるかという視点は非常に重要。アンケートで子どもたちの意見を聞くことが必要では。高砂市でも新たな学校づくりをテーマに意見交換を行っているが、子どもの意見も大切にしている（全6中学校の生徒会メンバーがワークショップを行った/自分たちが学びたいことを学べる学校になってほしいとの意見が出た）。子どもたちがどう学んでいきたいかという視点も大切なのでは。この検討委員会では、規模だけでなく、どのような教育の在り方があるかも検討ができれば良いのではないか。

【廣岡委員長】佐用町の教育の在り方を検証するにあたって、佐用高校も重要な存在と言える。町内の学校園の接続、連携の視点からも佐用町の小中学校はどのような姿であるべきか。そのあたりも一緒に考えていく視点も重要である。

極端な考えではあるが小中高一貫校のような形も考えられる。

(4)今後の事業計画について【企画総務係長】

(資料P16)

- ・意向調査(アンケート)や考える会(懇談会)を行い、その後次の検討委員会を開催予定している。
- ・アンケートについては、他自治体の事例等を参考に、偏りがない質問構成で作成していきたい。
- ・子どものいない家庭の意向もうかがっていきたい。

(5)その他

10 閉会【西坂副委員長】

- ・事前に資料に目を通しておくことで、もっと議論も深まったのでは。
- ・H23 の統合計画が立ち消えになった、この要因は通学時間などではないかと推測しているが、実際は何だったのか。
- ・次回は先行事例等の資料が提示されるとのこと。もう少し具体的な案を提示し、それをもって検討することで議論が深まるのではないかと。以上